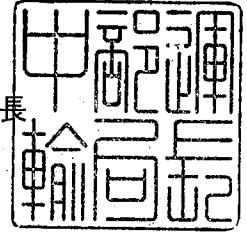




中運交企第92号
令和2年2月28日

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
会長 加藤 一郎 殿

中部運輸局長



令和元年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

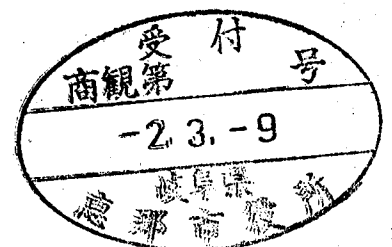
日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】

中部運輸局交通政策部 交通支援室
TEL: 052-952-8050



(別紙)中部運輸局二次評価結果 令和2年2月28日付け中運交企第92号通知

自治体・協議会名	明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・地域外の利用者や外国人観光客がバスを利用しやすい環境作りをしている点を評価します。

期待する取組

- ・山岡地区、岩村地区におけるデマンドについて、住民・利用者のニーズや利用状況を把握され、効果的な施策が行われることを期待します。
- ・新規利用者の獲得に向け効果的な利用促進策が行われることを期待します。

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要(全体)

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

平成20年3月21日設置

フィーダー系統 平成26年6月12日 確保維持計画策定

【沿線地域の特性】

- ・恵那市・中津川市は、山間地が多くを占め、岐阜県東濃地域に位置している。
- ・恵那市の人口は49,987人、中津川市阿木地域の人口は2,172人（令和元年10月1日現在）

第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画
期間：令和元年～5年度

【基本的な方針】

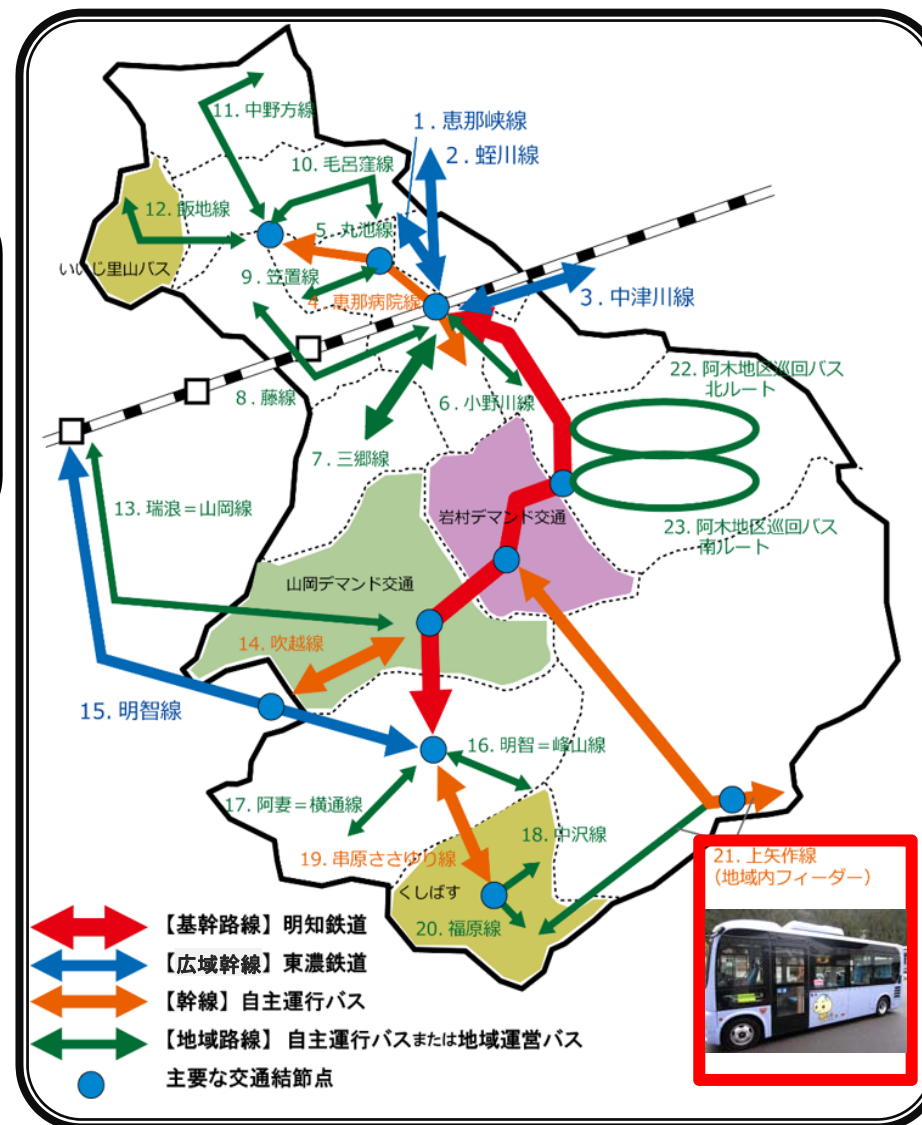
多くの担い手が連携し、
多くの方々が安心して暮らし、
おでかけできるまち

計画の目標

目標1 公共交通を「支える」「活用する」
地域住民の活動促進

目標2 沿線への移住定住を促す地域公共交通
ネットワークの形成

目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく
自然に移動できる県境の整備



目標1 公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進

【網計画の施策】

公共交通を「活用」する市民の意識づくり。公共交通を「支える」市民の活動促進。

- ①上矢作中学3年生に対しての利用啓発(3月実施)【補助路線】
- ②地域住民による待合場所の開放(明智町、6月)
- ③明知鉄道駅待合室の模様換え(明智駅、7月)
- ④新バス車両を活用し乗り方教室を開催(10月実施)【補助路線】
- ⑤明知鉄道沿線景観整備の実施(継続中)



目標2 沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成

【網計画の施策】

バスによる通学利用促進。地域によるバス運営の展開。

- ①上矢作地域自治区運営協議会、及び上矢作自治連合会で
地域路線確保維持改善計画中の目標を決定(5、6月)【補助路線】
- ②上矢作線ダイヤ改正の検討(継続中)【補助路線】

目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

【網計画の施策】

MaaSを意識した観光資源を結びつける取り組み。

バリアフリー化を通じたサービスアップ(現状維持から発展へ)。

- ①GTFS-JPのデータ作成、及び公開(10月、11月)
- ②外国語案内・バス系統番号の表示(継続中)【補助路線含む】
- ③大河ドラマに関連した列車の運行(継続中)



恵那市HP

共通: 公共交通マップを作成(4月発行、恵那市北部・南部で各6,000部)

共通: CATVで公共交通の利用促進番組を放映(1月の市政放送)

3.計画の達成状況の評価指標とその結果① (Check)

4

地域公共交通網形成計画における目標

・第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画に定めてある評価指標により確認を行う。

アウトプット指標		H29実績		R1実績	達成度		R5目標値
目標1 公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進	公共交通を「活用」する団体数	6団体 (達成度55%)	→	7団体 (H30実績)	63% (29年比+8%)	→	11団体
	ボランティア運転手養成講座の参加者数	0人/年 (達成度0%)	→	10人/年 (H30実績)	33% (29年比+33%)	→	30人/年
目標2 沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成	公共交通などで、沿線4高校に通える中学校数	7校 (達成度78%)	→	7校	78% (29年比±0%)	→	9校
	自主運行バス利用者 満足度	94.6% (達成度99%)	→	86.2%	90% (29年比▲9%)	→	96.0%
目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備	観光による公共交通利用者数 (観光列車、日帰り旅コース)(4月～翌年3月締)	16,222人 (達成度78%)	→	17,787人 (H30実績)	86% (29年比+8%)	→	20,700人
	グリーン会員証の発売枚数 (4月～翌年3月締)	963枚 (達成度80%)	→	917枚 (H30実績)	76% (29年比▲4%)	→	1,200枚
	うち 上矢作地区(フィーダー)	24枚		22枚			30枚

アウトカム指標		H29実績		R1実績	達成度		R5目標値
1. 明知鉄道の年間利用者数(4月～翌年3月締)		380,889人/年 うち定期外162,489人/年 通勤定期14,040人/年 通学定期204,360人/年 (達成度95%)	→	408,956人/年 うち定期外191,876人/年 通勤定期11,940人/年 通学定期205,140人/年 (H30実績)	102% (29年比+7%)	→	400,000人/年
2. 広域幹線の合計の年間利用者数※1		196,005人/年 うち明智線118,941人/年 蛭川線27,716人/年 恵那峡線23,270人/年 中津川線29,503人/年(達成度98%)	→	172,289人/年 うち明智線110,540人/年 蛭川線21,602人/年 恵那峡線18,332人/年 中津川線21,815人/年	86% (29年比▲12%)	→	200,000人/年
3. 自主運行バスの年間利用者数		194,557人/年 (達成度97%)	→	178,121人/年	89% (29年比▲8%)	→	200,000人/年

※1 広域幹線の年間利用者数は第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画策定段階の乗降調査から算出したものであり、内訳の利用者数合計199,430人/年と異なる。

3.計画の達成状況の評価指標とその結果②（Check）

5

			利用者数(単位:人)			収支率(目標値20%)			満足度(目標値96%)			自己 評価
			H29年度	H30年度	R1年度	H29年度	H30年度	R1年度	H29年度	H30年度	R1年度	
全体(広域幹線を除く)			197,038	190,181	181,350	20.9%	19.9%	20.3%	94.6%	88.9%	86.2%	B ₁
自主 運行 バス	旧 恵 那 地 区	大井長島地域 (市街地地区)	20,672	21,295	21,217	22.5%	24.7%	25.3%	95.2% ※1	86.0% ※1	90.9%	B ₁
		東野地域	851	874	752	6.7%	6.7%	6.1%			100%	B ₂
		三郷地域	25,439	25,468	23,925	42.2%	41.1%	37.6%			90.9%	B ₂
		武並地域	18,390	18,539	17,772	38.0%	36.2%	33.5%			83.3%	B ₂
		笠置地域	18,055	18,402	17,808	34.0%	31.7%	30.9%			100%	B ₂
		中野法地域	33,021	32,683	31,626	32.6%	31.9%	32.0%			72.2%	B ₁
		飯地地域	8,257	7,062	6,100	43.3%	35.2%	20.3%			83.3%※2	B ₂
	岩村地域 R1年度はデマンド		2,775	1,768	311	4.0%	2.6%	13.7%	100%	100%	83.3%	B ₁
	山岡地域 R1年度はデマンド 内数		7,268	6,931	4,236 (577)	4.3%	4.2%	5.2% (22.9%)	93.8%	75%	81.8%	B ₁
	明智地域		32,780	31,130	29,512	22.8%	23.3%	22.8%	100%	100%	100%	B ₂
	串原地域		11,635	9,338	9,630	7.2%	6.5%	6.9%	77.7%	100%	100%	B ₁
	上矢作地域 (フィーダー)		15,413	14,977	15,232	7.6%	6.8%	7.0%	100%	93.4%	88.9%	B ₁

※1 旧恵那地域のH29、30年度満足度は主要路線の抽出調査による。 ※2 回答が無かったため追加調査による。

評価基準

A : 利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合
B₂ : 利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合

B₁ : 利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合
C : 利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

		利用者数(単位:人)			収支率(目標値20%)			満足度(目標値96%)			自己評価
		H29年度	H30年度	R1年度	H29年度	H30年度	R1年度	H29年度	H30年度	R1年度	
有償運送	阿木地域	802	617	1,105	5.2%	4.0%	4.9%	－	－	75.0%	B ₁
	いいじ里山バス	1,679	1,358	1,244	12.4%	10.0%	10.5%	100%	100%	50.0%	B ₁
	くしばす	－	－	881	－	－	9.3%	－	－	50.0%	運行初年度

評価基準

A : 利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合
 B₂ : 利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合

B₁ : 利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合
 C : 利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

目標達成状況についての考察

- ・達成度が増加した指標は、直近で新たに活動を開始した団体の存在と、昨年のNHK連続テレビ小説の影響が非常に大きい。進捗が見られない指標は現在検討中であるものと、基準とする期間が違うため前年の実績により評価したもので、今後も継続し事業を進める。
- ・利用者数についてはほとんどの路線で減少傾向である。これまで定期的に利用していた高齢者の病気や施設への入所、スクールバス機能として利用している子供の減少が挙げられる。デマンド化した地域でも一部固定客の利用にとどまる。(運転手の方への聞取りによる)
- ・収支率は路線をデマンド化した岩村、一部路線をデマンド化した山岡地区で改善したものの目標値には至らなかった。山岡地域では路線バスの収支率、両地区共通として乗合率が増加しないことが要因と考えられる。

今後の方針

- ・この結果を基に地域への利用促進を行い、地域と連携して路線の見直し、利便性向上、利用促進策を実施する。
- ・全体の満足度ではなく、不満、やや不満との意見に注目し、各地域と協議を行い改善策を実施する。

課題

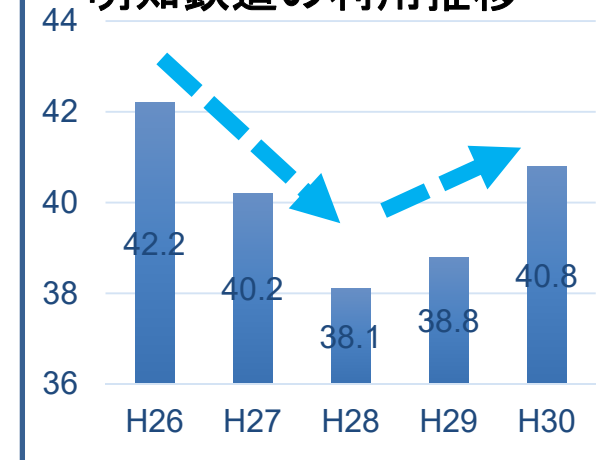
明知鉄道の年間利用者数は、利用促進とドラマのロケに関連した観光利用の増加により目標である年間40万人以上に推移。

→ 今後、この水準をいかに維持するかが課題である。

バスの利用者については全体的に減少傾向。デマンド化した地域でも一部固定客の利用にとどまっている。

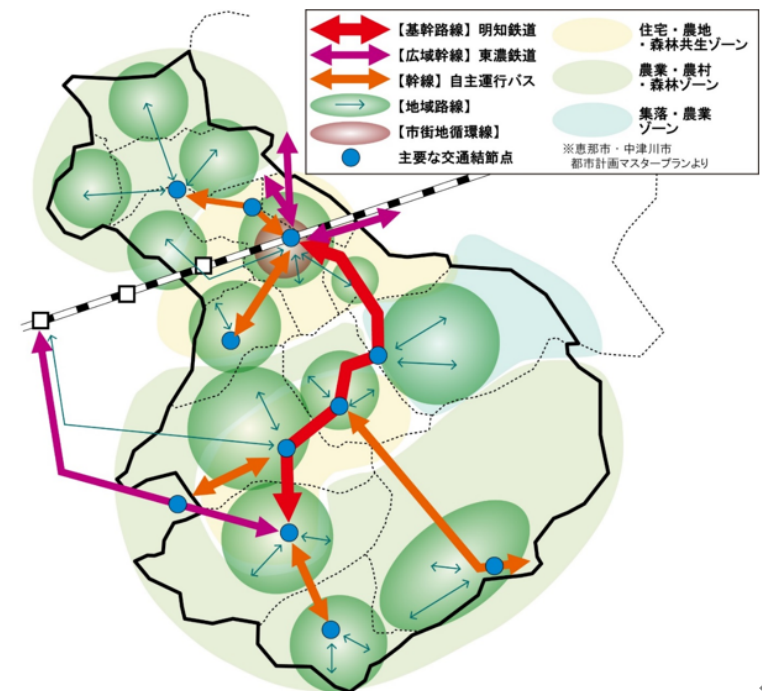
→ ユースへの対応と新規利用者の掘り起こしが課題である。

明知鉄道の利用推移



今後の取り組み方針

- ・明智町で大河ドラマ「麒麟がくる」のドラマ館が開館予定。関係団体と連携し利用者の増加に努める。
- ・デマンド化した地域では住民による利用促進団体が発足。新規利用者獲得のため、町内団体と連携して利用者増を図る。
- ・運転免許自主返納者に対する対策が開始予定。関連して高齢者の利用促進として壮健クラブや地域サロンで説明会、及びグリーン会員証のPRを実施する。
- ・沿線住民に公共交通の利用に当事者意識を持っていたため、利用促進の継続に加えて、経費・収支率についても報告を実施する。



令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要(経緯)

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

平成20年3月21日設置

フィーダー系統 平成26年6月12日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
岩村の観光客が多い反面、鉄道が二割しか利用されていないのは残念。観光客全体の増加は把握しているのか。	新しいラッピング車両は内装にこだわり、「乗らないと楽しめない」空間作りに重点を置き好評を得ている。	全体的に地域住民の利用が減少していることから、利用促進のPRを行うことで住民意識の高揚等を図りたい。 第三者評価委員会での評価をアクションにつなげるためにも、明知鉄道を基幹路線とする恵那市、中津川市阿木地区の交通ネットワークをより楽しく活用し、地域全体で守り育てる意識を持ってもらうよう地域、事業者、行政が協働で検討を行う。 前計画からの3Kサポート（高齢者、高校生、観光客）事業の実施と合わせ、新たな3Kサポート事業の実施を図る。
MaaSに関する記載があるが、協議会で検討された内容なのか。	二次計画では地域外から来た方を取り込むことを考えるため、新たな取り組みへの挑戦として検討し記載したものである。	
高校生の通学利用減少に対して、高校生と意見交換をするなど、何か対策をおこなっているか。	沿線の高校と明知鉄道とで意見交換を実施し、ダイヤ改正などはその意見を踏まえて行っている。二次計画策定時には、高校生アンケート調査を実施し、運行ダイヤに対しての意見が多くあったため、計画にも反映している。	
「半分、青い。」効果で観光客が訪れ、地域の魅力の認知度が上がっているため、名古屋市などの市外においてもPRできれば効果があるのではないかな。	明知鉄道が参加する鉄道の日イベントなど、域外でのPR活動において地域の魅力を精力的に発信した。	
観光客を外の地域から呼び込むことが効果的と思うため、連ドラを契機としてリピーターになってもらうような取り組みを展開して欲しい。また、他の交通への乗換をしやすい形として地域全体を回ってもらえるような仕組みもよいのではないかな。鉄道を軸に地域活性化して欲しい。	岩村の観光客は多く、フィーダー補助によるバス車両更新のタイミングで、以前の車両では不可能であった岩村城下町を經由し岩村城跡入口へつなぐ路線を新設した。訪れる観光客から好評を得ている。	

外国語案内・バス系統番号の表示

【目的】 域外から来た人や訪日外国人が抵抗なく自然に移動できる環境の整備を行う

【ねらい】 公共交通の乗換方法や乗り方がわからないため利用されなかった方、外国語対応がされていないため乗車期会を逃していた方々に乗車していただく。

【概要】 明知鉄道の各駅にある案内看板や、市内の各バス停に新たに表示を追加。さらに、貼付けてあるQRコードから外国語対応の看板を見ることができるように対応した。

【事業効果】 現在、国際交流協会の協力を得ながら徐々に対応する看板を増やしている状況。ALTの皆さんにも太鼓判をいただきました。



『麒麟がくる』に関連した列車の運行

【目的】 令和2年1月から大河ドラマ「麒麟がくる」のドラマ館が開館予定、明知鉄道沿線地域の注目が高まることが予想されることから、観光客へのPRとして行った。

【概要】 内装も意識したラッピング列車・明智光秀の桔梗紋を印刷した往復硬券切符の販売、関連したグッズの販売。

【期間】 平成31年4月～(放送終了後までの予定)

【事業効果】 大河ドラマ「麒麟がくる」の放送前であるにもかかわらず、往復硬券切符は2,000枚作成し完売。定期外利用者は「半分、青い。」効果があったH30年10月同期比では86%だが、H29年10月同期比で107%と好調である。



ラッピング列車車内